

モーセ

聖徒たちと歩む聖書 ~30~
モーセ その4

「踏み出すならば
拓かれる」

出14~15章 出エジプト・葦の海の奇跡

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

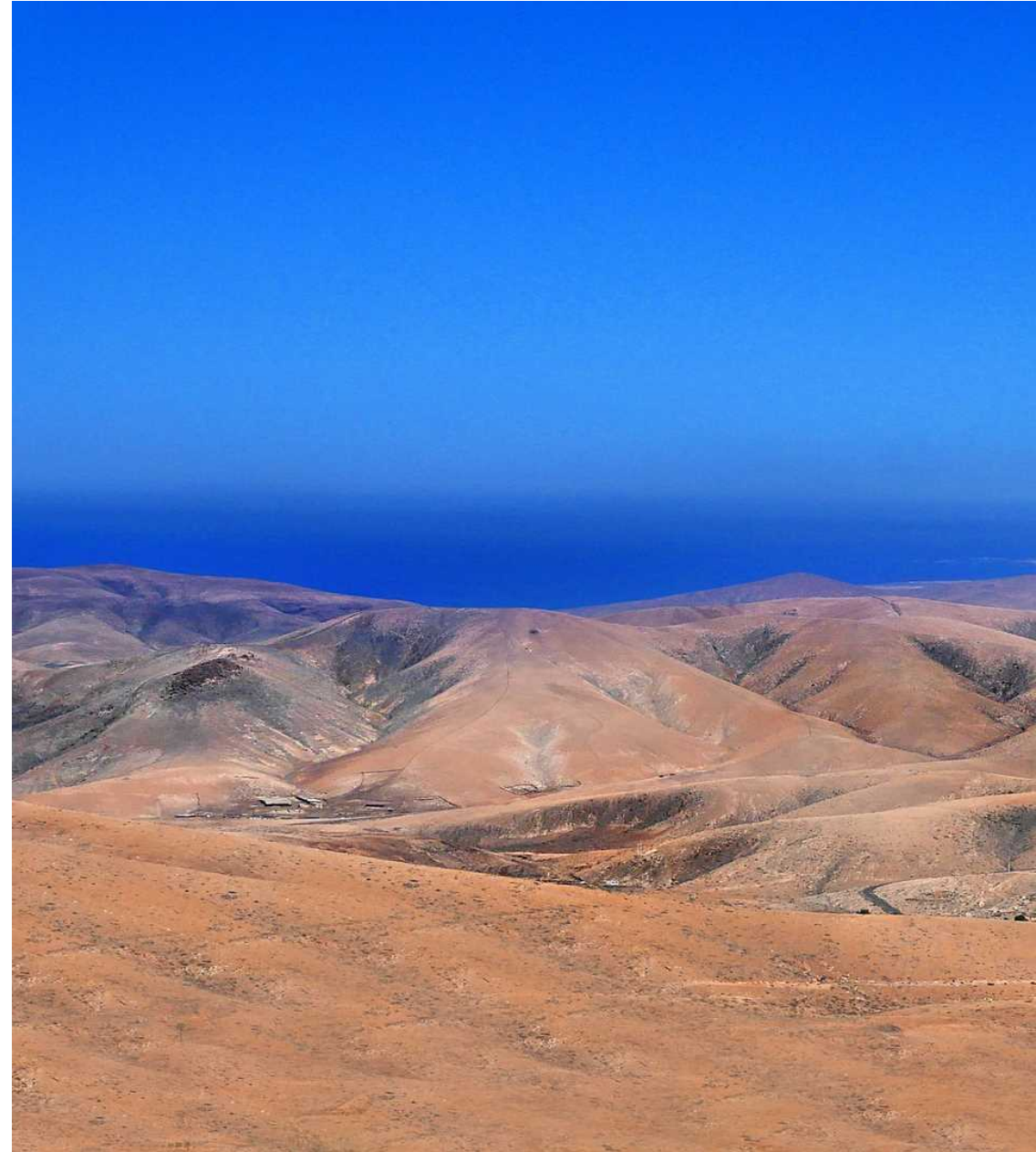
I. 葦の海の奇跡 出14章

II. イスラエルの賛歌 出15章

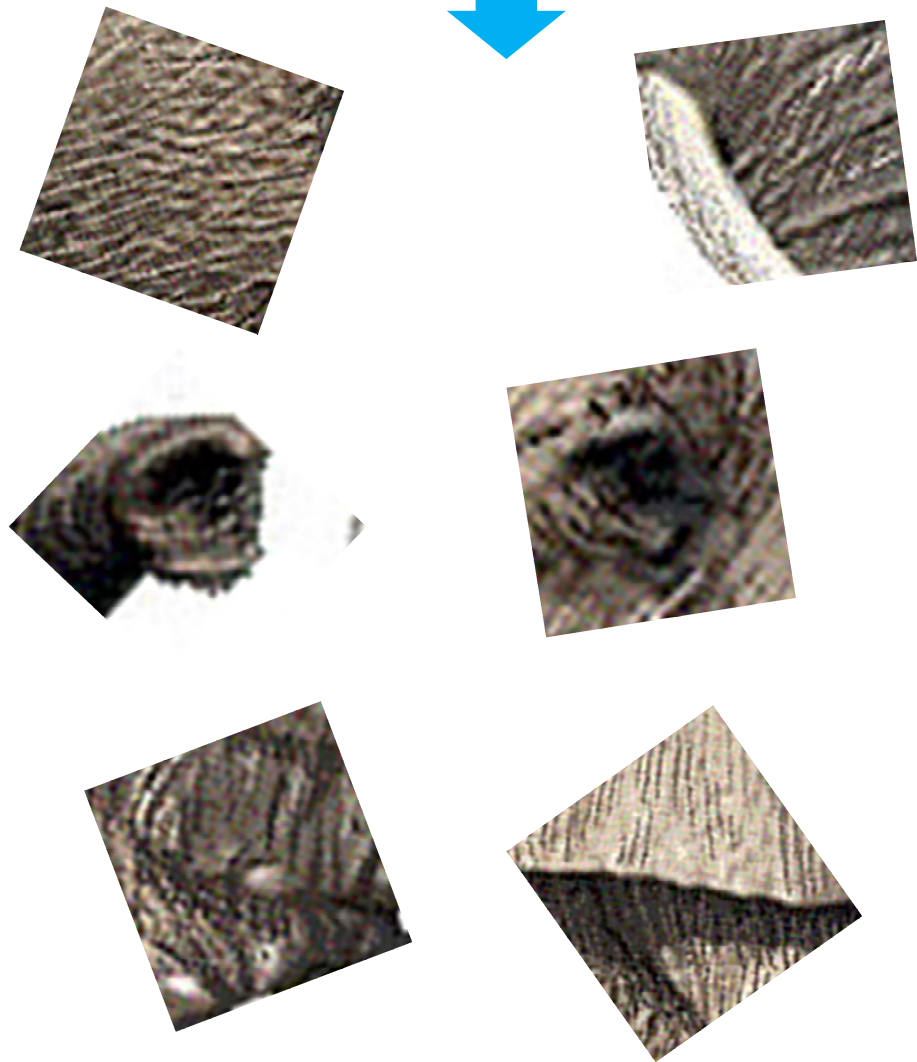
III. まとめと適用

来るべきメシアを見上げよう

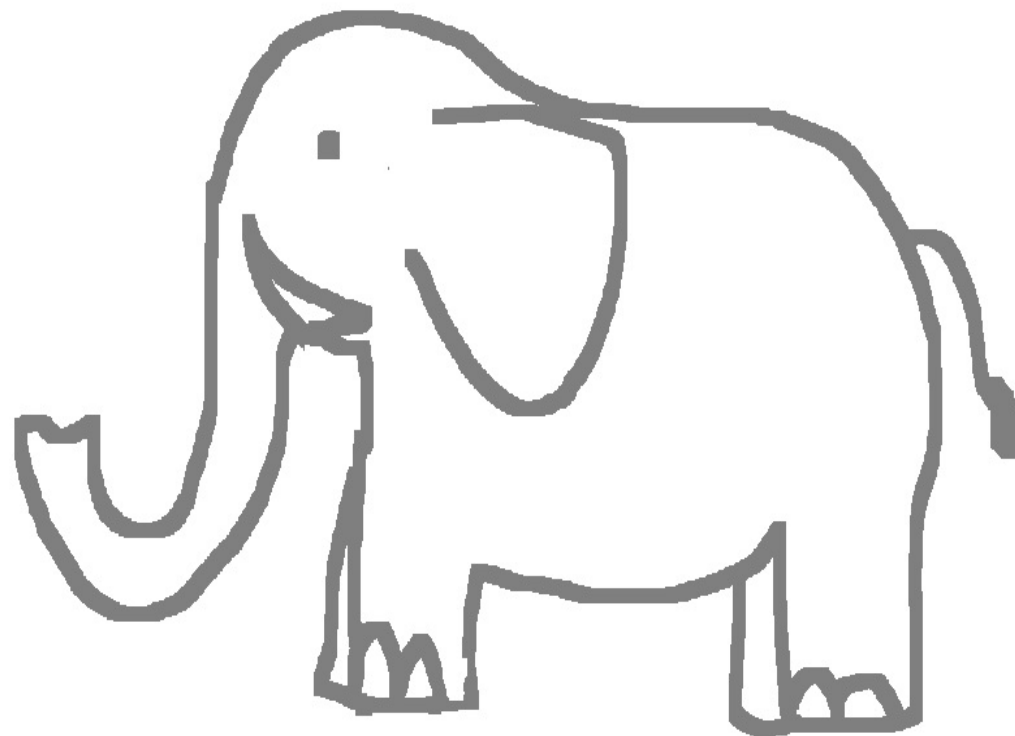
私たちの出エジプト



やたら詳しいけど、断片的

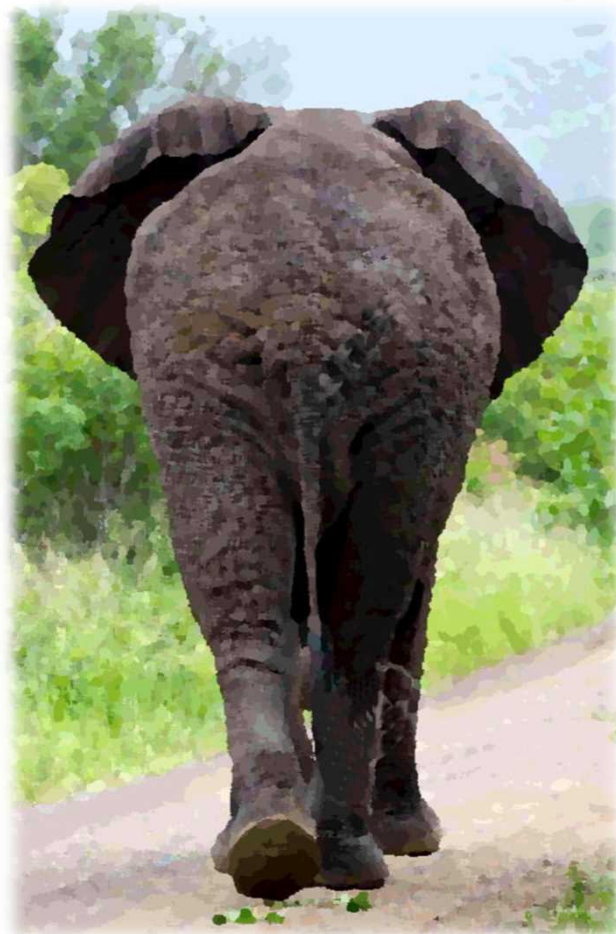


ざっくりだけど、全体的



わかりやすいのは、どっち？

見る角度が違っても、
象は象でしょ？



鼻も牙も
ないなんて、
象とは、
認めんぞ〜

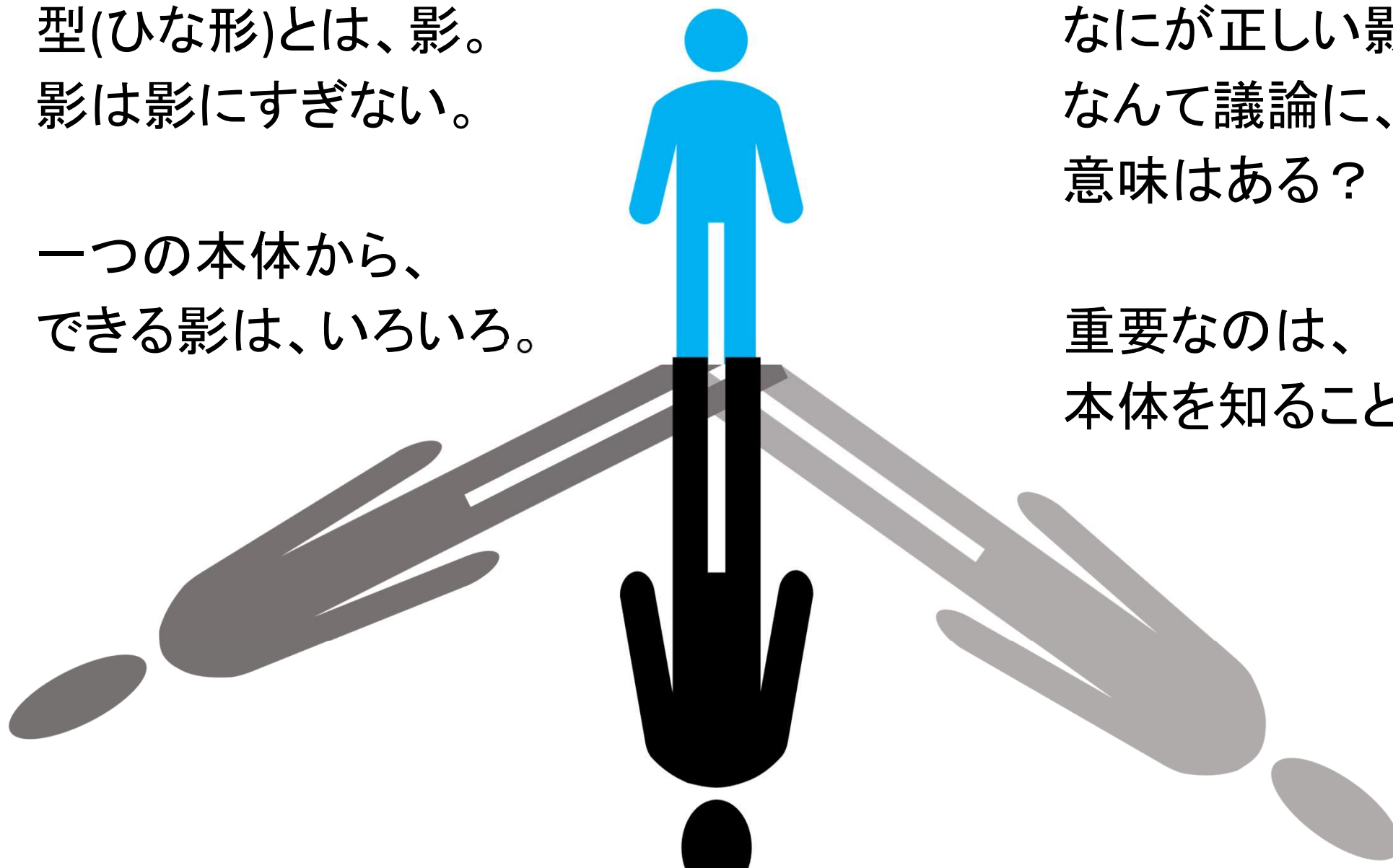




いろいろな角度から見ることで、
浮かび上がる事実がある!!

型(ひな形)とは、影。
影は影にすぎない。

一つの本体から、
できる影は、いろいろ。



なにが正しい影か、
なんて議論に、
意味はある？

重要なのは、
本体を知ること

【つかむべきは、本質。影にとらわれすぎないこと!!】

■ 70人か、75人か。400年か、430年か。

聖書は明らかに、そんなことを気にしていない。

■ なぜなら、神の視点からすれば、それらも影に過ぎないから。

■ 聖書で一見矛盾と見える点にも、合理的な説明は可能。

懐疑的な人に対しては、有効だが、決して本質ではない。

■ 重要なのは、語るべき本質を見極めること。

柱となる本質を、がっしりとつかもう!!

■ 主が決め球に求めているのは、渾身の直球どまん中!!



イスラエルの祭りとメシアの生涯

	祭りの名称	レビ記	月	日	太陽暦	メシアの生涯
春の祭り メシアの初臨	①過越の祭り	23:5	第一の月 (ニサン)	14日	3～4月	受難
	②種なしパンの祭り (除酵祭)	23:6～8	第一の月	15～21日 (7日間)	3～4月	贖罪
	③初穂の祭り	23:10～ 14	第一の月	除酵祭の 安息日翌日	3～4月	復活
	④五旬節の祭り (ペンテコステ)	23:15～ 21	第三の月 (シワン)	初穂祭の 50日後	5～6月	聖霊降臨
夏期	中間期	23:22				世界宣教 (教会時代)
秋の祭り メシアの再臨	⑤ラツパの祭り	23:24～ 25	第七の月 (ティシュリ)	第一日目 (新月の日)	9～10月	携拳 (空中再臨)
	⑥贖罪の日 (ヨムキプール)	23:27～ 32	第七の月	10日	9～10月	大艱難時代
	⑦仮庵の祭り	23:34～ 43	第七の月	15日	9～10月	千年王国 (再臨)

※「さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。ルカ22:1」

【すべては、アブラハムから始まった】

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

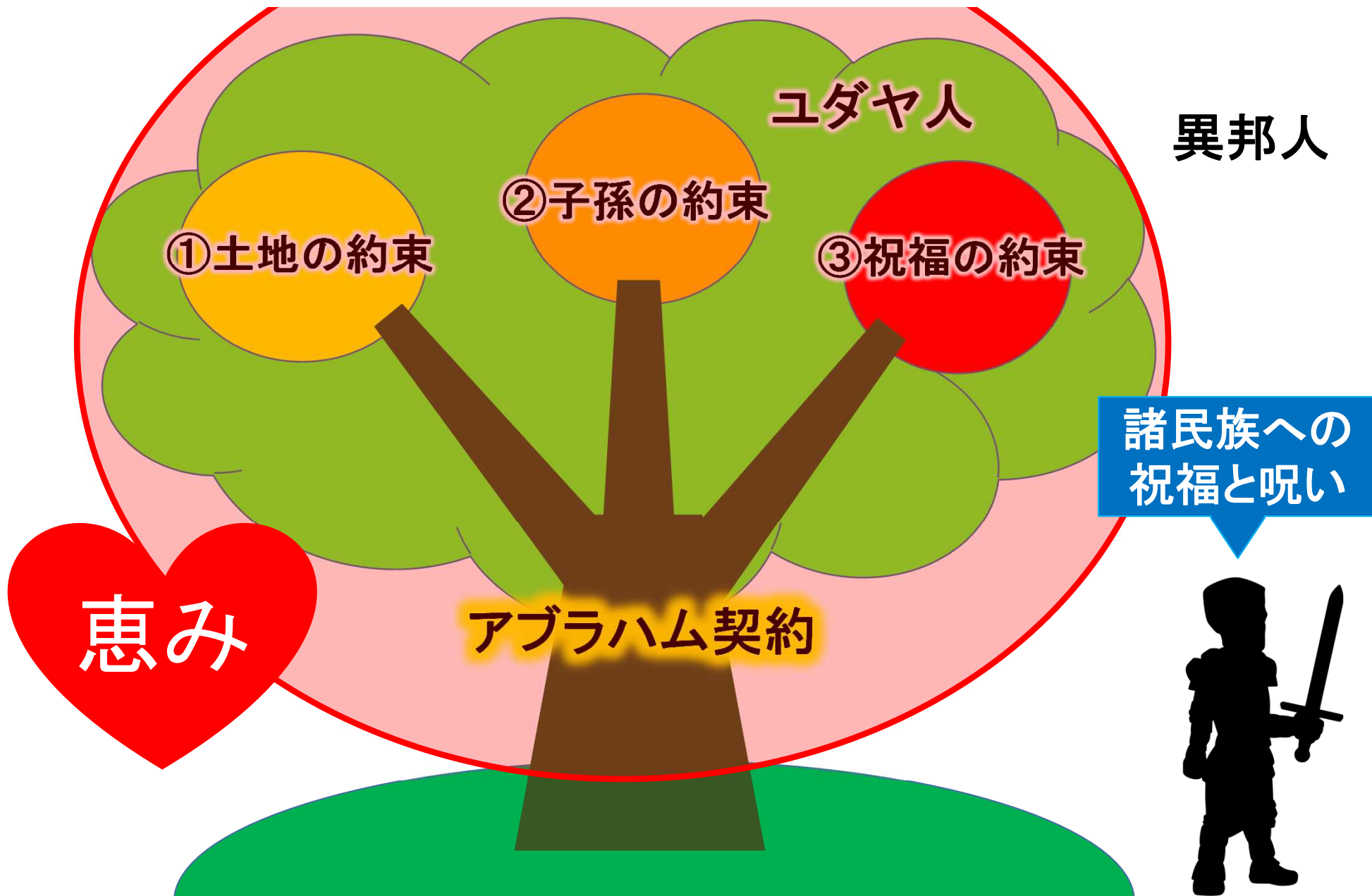
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】

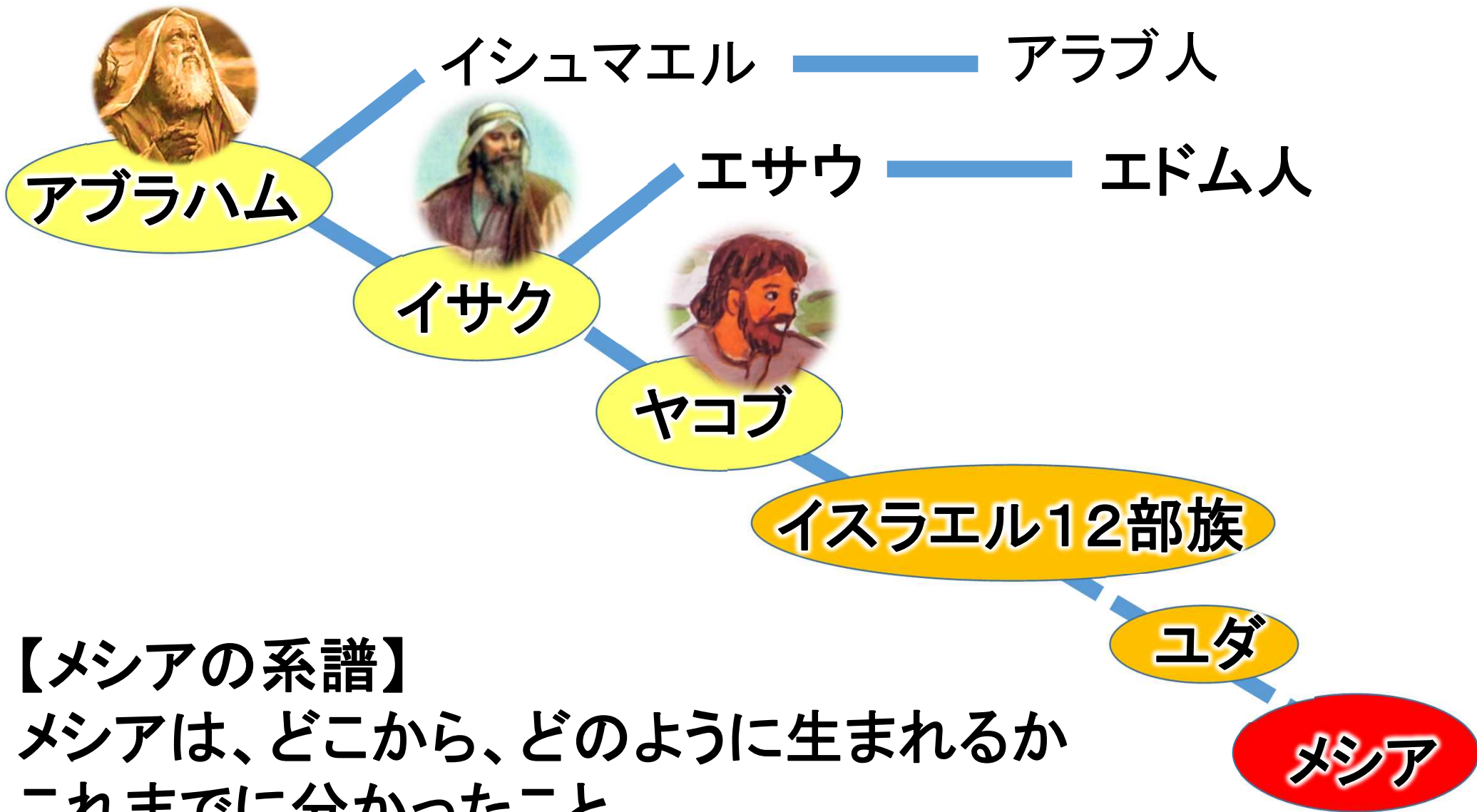


【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた(アブラハム)の子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

- およそ150年後、数奇な運命を経て、4代目のヨセフは、エジプトで宰相となった。
- 三代目のヤコブは、大飢饉を逃れ、一族を連れて、エジプトへ移り住んだ。
- 豊かなエジプトの地で、奴隷の苦難を経ながらも、イスラエルは増え、民族として成長していった。

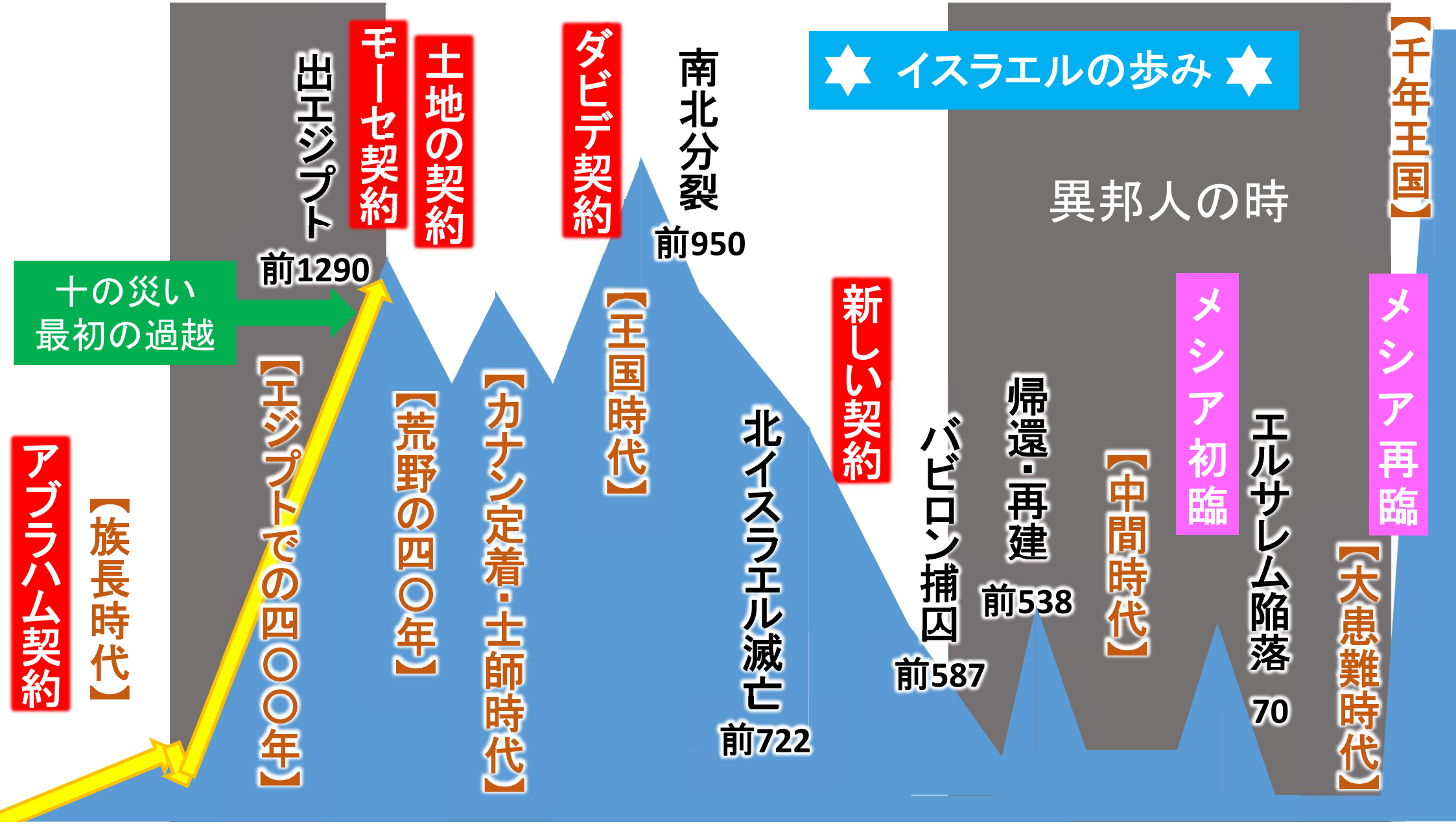




【メシアの系譜】

メシアは、どこから、どのように生まれるか
これまでに分かったこと。

★ イスラエルの歩み ★



【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

ダビデ契約

土地の契約

モーセ契約

出エジプト 前1290

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

【族長時代】

アブラハム契約

十の災い 最初の過越

異邦人の時

★ イスラエルの歩み ★

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

- ヘブル人の男子をナイルに投げ込めと命じたパロ。
- モーセは、籠に入れられ、エジプトの王女に拾い上げられ、養子となり、王宮で育てられた。
- しかし、モーセは、40歳にして、エジプトを追われ、40年間に荒野で羊飼いとして過ごした。
- 80歳のモーセに神が現れ、イスラエルのリーダーとして召し出し、「わたしはある」という御名を告げた。
- 「イスラエルを去らせよ」という主の命をパロは拒み、エジプトに、次々と災いが下った。



0～40歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

40～80歳

荒野での羊飼生活

召命
80才

十の災い

出エジプト

80～120年

モーセ契約

民の反抗

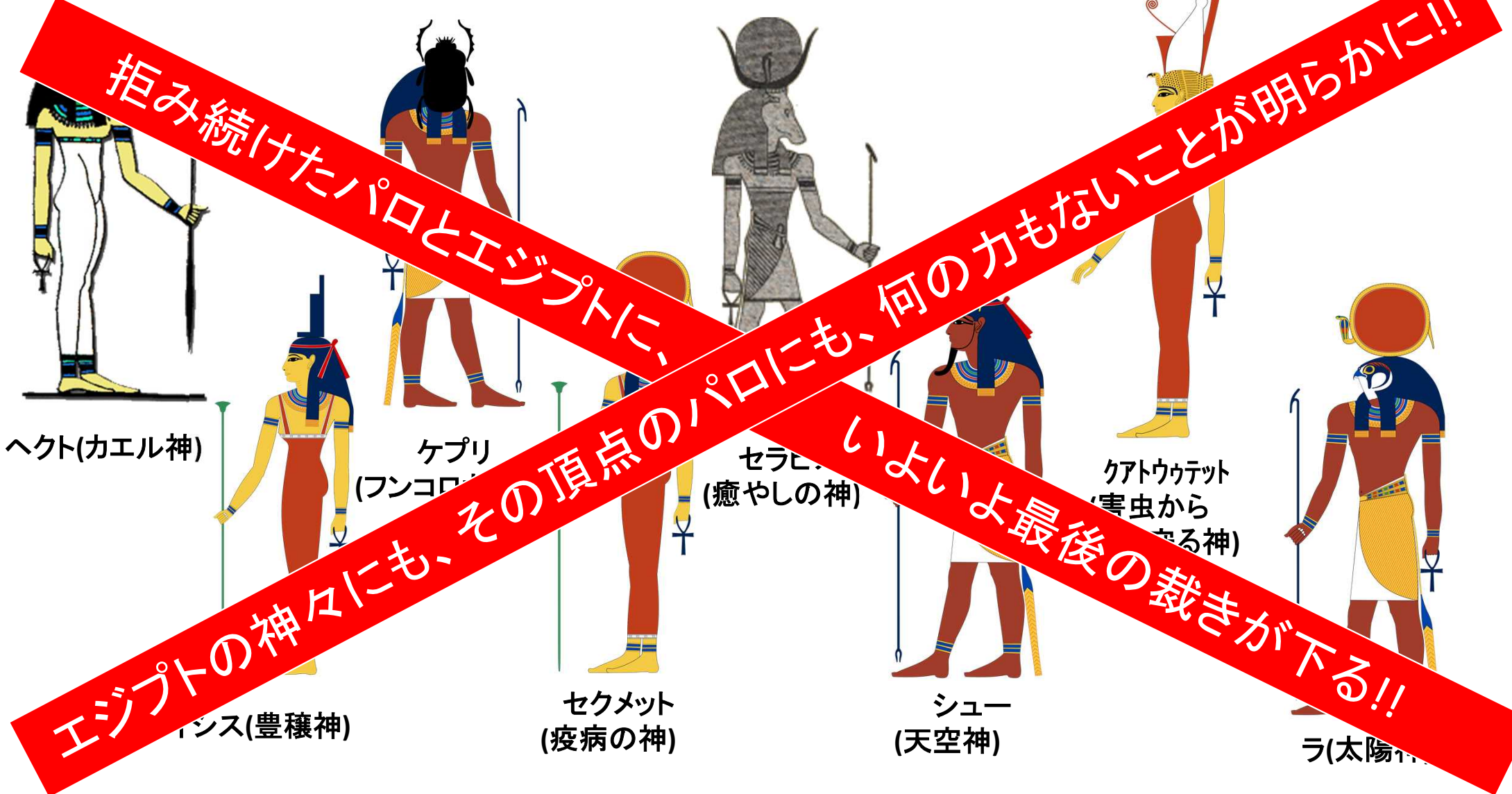
荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【十の災いで裁かれたのは、エジプトの数百ある偶像の神々】



【十番目の災い・エジプト脱出】

- 拒み続け、かたくなにされたパロとエジプトに、最後の裁きが下り、すべての初子が打たれた。
- イスラエルは、主に命じられた通り、子羊の血を家の門とかもいに塗り、災いを過ぎ越した。
- この出来事は、過越祭として、今もなお祝われている。
- 恐れを抱いたエジプトから、イスラエルが得た、多くの財は、400年の奴隷の対価となった。
- モーセは、ヨセフのミイラを携えてエジプトを出た。アブラハムに約束された、神の時が来たのだ。
- 昼は雲の柱、夜は火の柱が、イスラエルを導いた。





I . 葦の海の軌跡

出エジプト記14章

【主の命令】 出 14:1～2

【主】はモーセに告げて仰せられた。

「イスラエル人に、引き返すように*言え。そしてミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない。

* 道をそれるように

■ 当時の地名は不明で、どこなのかは定かでない。
紅海なのか、内陸湖なのか、湾なのか…。

■ 明らかなのは、海と山に挟まれた袋小路へ、神はイスラエルをあえて進ませたということ。



【主に従ったイスラエル】 出14:3～4

パロはイスラエル人について、『彼らはその地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』と言うであろう。わたしはパロの心をかたくなにし*、彼が彼らのあとを追えば、パロとその全軍勢を通してわたしは栄光を現し、エジプトはわたしが【主】であることを知るようになる。」そこでイスラエル人はそのとおりにした。*



- * 再三のチャンスを拒み続けてきた結果。
- 神の裁きの目的は、主の栄光を現わし、裁きを通して、エジプトが真の神を知ること。
- 不可解な命令にも、モーセとイスラエルは従った。

【パロの変心】 出14:5～6

民の逃げたことがエジプトの王に告げられると、パロとその家臣たちは民についての考えを変えて言った。「われわれはいったい何ということをしたのだ。イスラエルを去らせてしまい、われわれに仕えさせないとは。」

そこでパロは戦車を整え、自分でその軍勢を率い、えり抜きの戦車六百とエジプトの全戦車を、それぞれ補佐官をつけて率いた。



- 当時世界最強と呼ばれた戦車部隊。
- 災いの中でも戦車部隊は維持していたパロ。国民の多大な犠牲の上に！

【パロの追撃】 出14:8～9

【主】がエジプトの王パロの心をかたくなにされたので、パロはイスラエル人を追跡した。しかしイスラエル人は臆することなく*出て行った。

それでエジプトは彼らを追跡した。パロの戦車の馬も、騎兵も、軍勢も、ことごとく、バアル・ツェフォンの手前、ピ・ハヒロテで、海辺に宿営している彼らに追いついた。

* 意気揚々と(口語訳・新共同訳)

■ ゆるんでいたイスラエルに、背後から迫る危機!!





【イスラエルの叫び】 出14:10～11

パロは近づいていた。それで、イスラエル人が目を上げて見ると、なんと、エジプト人が彼らのあとに迫っているのではないか。イスラエル人は非常に恐れて、【主】に向かって叫んだ。

そしてモーセに言った。「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということをお私たちにしてくれたのです。」

■ 恐怖でパニックに陥るイスラエル。

組織されていても、彼らには実戦経験は皆無。

■ 民の不平は、モーセに向けられた。強烈な皮肉。



【モーセの促し】 出14:12～14

私たちがエジプトであなたに言ったことは、こうではありませんでしたか。『私たちのことはかまわないで、私たちをエジプトに仕えさせてください。』事実、エジプトに仕えるほうがこの荒野で死ぬよりも私たちには良かったのです。」

それでモーセは民に言った。「恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる【主】の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。【主】があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」

■この時、求められた三つの態度

恐れるな

神を見よ

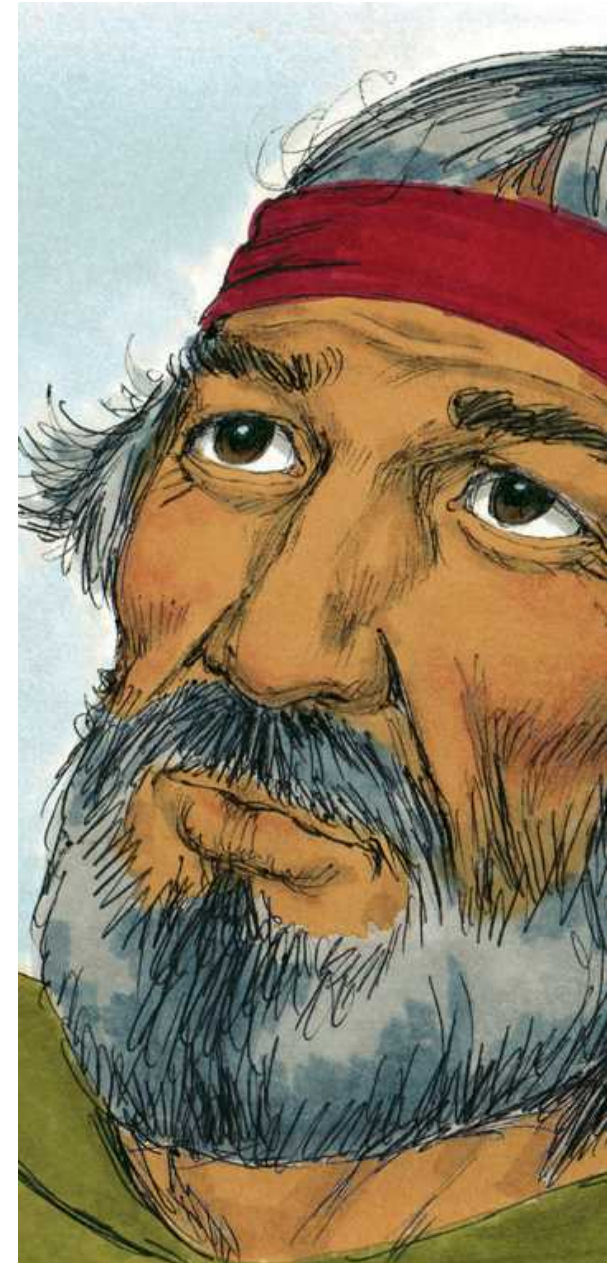
沈黙せよ



【主の命令】 出14:15～16

【主】はモーセに仰せられた。「なぜあなたはわたしに向かって叫ぶのか。イスラエル人に前進するように言え。あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に差し伸ばし、海を分けて、イスラエル人が海の真ん中のかわいた地を進み行くようにせよ。」

- モーセのこの時の使命は、民に命じること。
- 主の命令と出来事の順番は
 - “前進せよ” → “海が分かれる”
 - “海が分かれた” → “前進せよ” ではない!!
- 行きなさいと命じられ、歩みだす時、道は拓かれる。



【繰り返される主の約束】 出14:17～18

「見よ。わたしはエジプト人の心をかたくなにする。彼らがそのあとから入って来ると、わたしはパロとその全軍勢、戦車と騎兵を通して、わたしの栄光を現そう。

パロとその戦車とその騎兵を通して、わたしが栄光を現すとき、エジプトはわたしが【主】であることを知るのだ。」

■ 3～4節の主の言葉が繰り返される。

→ 神の約束は、繰り返し語られる。

■ 体験を経てはじめて、言葉が身につく、
繰り返しの中で育まれていくイスラエル。



【栄光の主】 出14:19～20

ついでイスラエルの陣営の前を進んでいた神の使い*は、移って、彼らのあとを進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移って、彼らのうしろに立ち、エジプトの陣営とイスラエルの陣営との間に入った。それは真っ暗な雲であったので、夜を迷い込ませ、一晩中、一方が他方に近づくことはなかった。

* 栄光の雲の中におられる、主の使い

➡ 受肉前のメシアが、イスラエルを導いた。

「イエスは言われた。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』 ヨハネ8:58」



【分かれた水】 出14:21～22

そのとき、モーセが手を海の上に差し伸ばすと、
【主】は一晩中強い東風で海を退かせ、海を陸地とされた。それで水は分かれた。そこで、イスラエル人は海の真ん中のかわいた地を、進んで行った。水は彼らのために右と左で壁となった。

- モーセとイスラエルは覚悟を決め、戦車部隊に背を向け、海に向かって歩みだした。
- そのとき、モーセは、海の上に手を伸ばし、水は別れ、海の中に道が現れた。
- 民とモーセは、沈黙し、一晩中祈り続けていたのだろう。

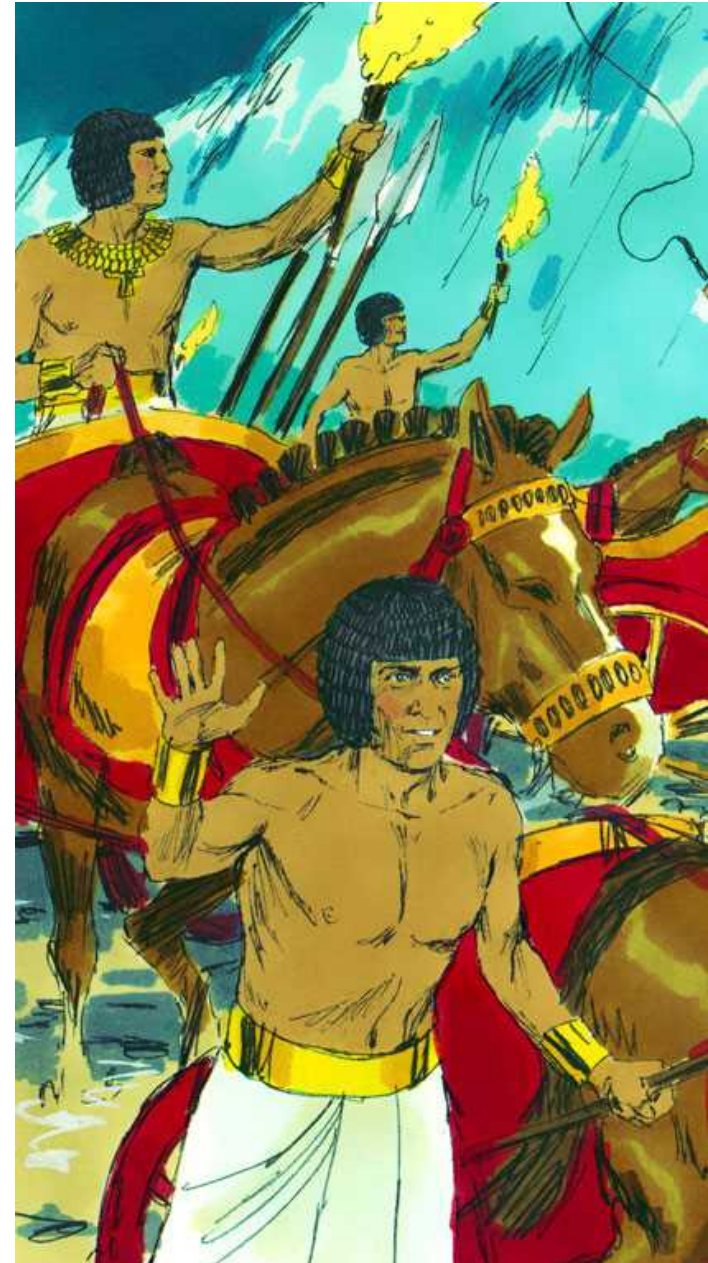


信仰の決意がなされた時

【深追いするエジプト軍】 出14:23～25

エジプト人は追いかけて来て、パロの馬も戦車も騎兵も、みな彼らのあとから海の中に入って行った。朝の見張りのころ、【主】は火と雲の柱のうちからエジプトの陣営を見おろし、エジプトの陣営をかき乱された。その戦車の車輪をはずして、進むのを困難にされた。それでエジプト人は言った。「イスラエル人の前から逃げよう。【主】が彼らのために、エジプトと戦っておられるのだから。」

- わきまえもなく、イスラエルを追ったエジプト軍。しかし、気づいたときには、すでに遅く…。



【海に飲まれたパロの軍勢】 出14:26～28

このとき【主】はモーセに仰せられた。「あなたの手を海の上に差し伸べ、水がエジプト人と、その戦車、その騎兵の上に返るようにせよ。」

モーセが手を海の上に差し伸べたとき、夜明け前に、海がもとの状態に戻った。エジプト人は水が迫って来るので逃げたが、【主】はエジプト人を海の真ん中に投げ込まれた。水はもとに戻り、あとを追って海に入ったパロの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残された者はひとりもいなかった。



【主を恐れ、信じたイスラエル】 出14:29～31

イスラエル人は海の真ん中のかわいた地を歩き、水は彼らのために、右と左で壁となったのである。

こうして、【主】はその日イスラエルをエジプトの手から救われた。イスラエルは海辺に死んでいるエジプト人を見た。イスラエルは【主】がエジプトに行われたこの大いなる御力を見たので、民は【主】を恐れ、【主】とそのしもべモーセを信じた。

■ イスラエルは、 **主に従い、恵みによって神を知った**

■ エジプトは、 **主に逆らい、裁きによって神を知った**



Ⅱ. イスラエルの賛歌

出エジプト記15章



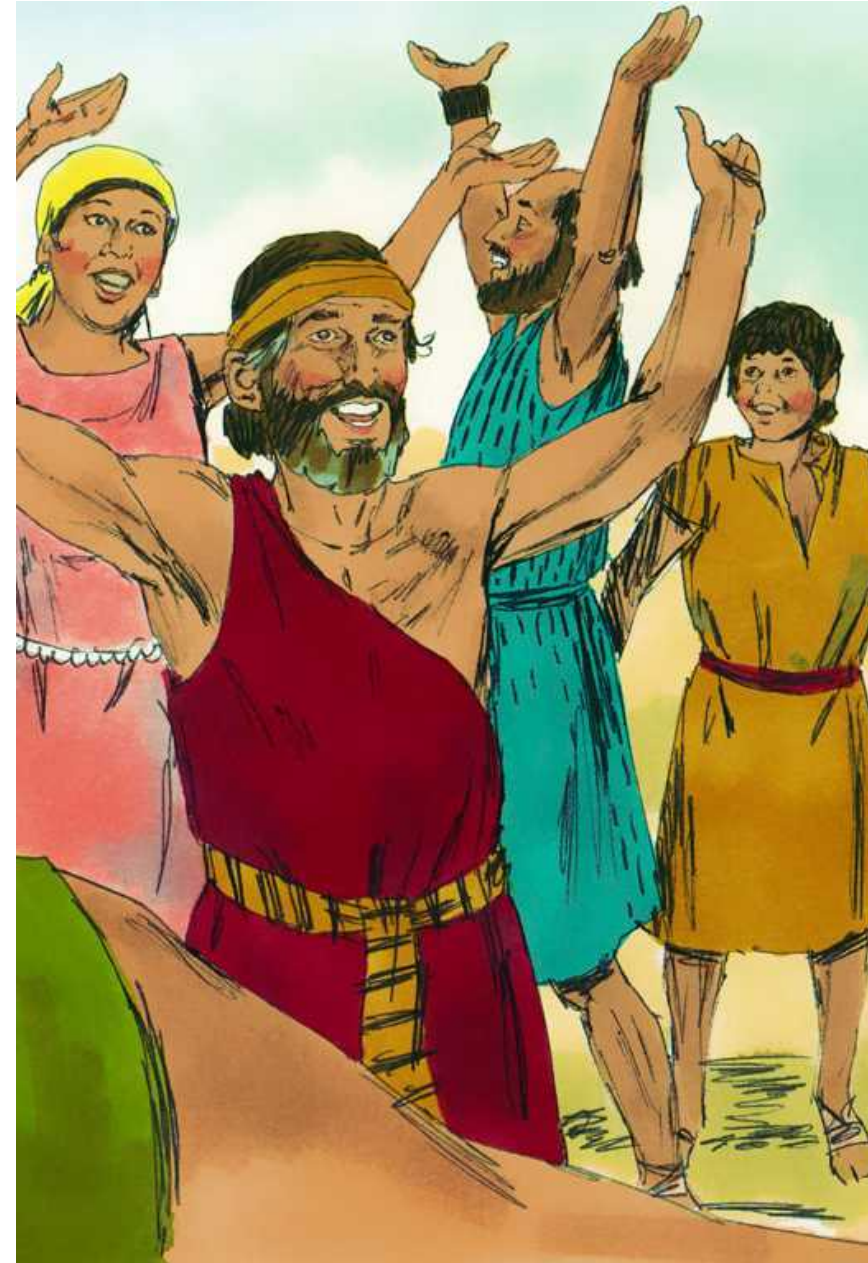
【モーセの賛歌】 出15:1

そこで、モーセとイスラエル人は、
【主】に向かって、この歌を歌った。

- エジプト脱出、葦の海の軌跡の後、
モーセは、神への賛美を歌った。
➡ 聖書で最初に記された賛歌。

■ 三連からなる賛歌

- ① 1～5節 “神の御名” ...神の性質について。
- ② 6～12節 “神の力” ...唯一の神の勝利
- ③ 13～18節 “主の約束に基づく希望”
...主の恵みは、契約に基づく恵み(ヘセツ)



【①神の御名】 出15:1~5

彼らは言った。「【主】に向かって私は歌おう。

主は輝かしくも勝利を収められ、

馬と乗り手とを海の中に投げ込まれたゆえに。

主は、私の力であり、ほめ歌である。主は、私の救いとなられた。

この方こそ、わが神。私はこの方をほめたたえる。

私の父の神。この方を私はあがめる。

【主】はいくさびと。その御名は【主】。

主はパロの戦車も軍勢も海の中に投げ込まれた。

えり抜き補佐官たちも葦の海におぼれて死んだ。

大いなる水は彼らを包んでしまい、彼らは石のように深みに下った。



【②神の力】 出15:6～9

【主】よ。あなたの右の手は力に輝く。

【主】よ。あなたの右の手は敵を打ち砕く。

あなたは大いなる威力によって、
あなたに立ち向かう者どもを打ち破られる。

あなたが燃える怒りを発せられると、
それは彼らを刈り株のように焼き尽くす。

あなたの鼻の息で、水は積み上げられ、流れはせきのように、
まっすぐ立ち、大いなる水は海の真ん中で固まった。

【②神の力】 出15:10~12

敵は言った。

『私は追って、追いついて、略奪した物を分けよう。おのれの望みを彼らによってかなえよう。剣を抜いて、この手で彼らを滅ぼそう。』
あなたが風を吹かせられると、海は彼らを包んでしまった。
彼らは大いなる水の中に鉛のように沈んだ。

【主】よ。神々のうち、だれかあなたのような方がいるでしょうか。
だれがあなたのように、聖であって力強く、たたえられつつ恐れられ、
奇しいわざを行うことができますでしょうか。
あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らをのみこんだ。

【③主の約束に基づく希望】 出15:13～18

あなたが贖われたこの民を、あなたは恵みをもって導き、御力をもって、聖なる御住まいに伴われた。

国々の民は聞いて震え、もだえがペリシテの住民を捕らえた。

そのとき、エドムの首長らは、おじ惑い、モアブの有力者らは、震え上がり、カナンの住民は、みな震えおののく。

恐れとおののきが彼らを襲い、あなたの偉大な御腕により、彼らが石のように黙りますように。【主】よ。あなたの民が通り過ぎるまで。あなたが買い取られたこの民が通り過ぎるまで。

あなたは彼らを連れて行き、あなたご自身の山に植えられる。

【主】よ。御住まいのためにあなたがお造りになった場所に。

主よ。あなたの御手が堅く建てた聖所に。

【主】はとこしえまでも統べ治められる。」

【③主の約束に基づく希望】 出15:13～18

■ 第3連(13～18節)では、イスラエルがこれから導かれる約束の地の様子が歌われている。

■ イスラエルの出エジプトの奇跡を知り、恐れおののく、カナンの子の姿。

■ 賛歌の最後は、神の約束が確認され、締められる。

「あなたは彼らを連れて行き、あなたご自身の山に植えられる。

【主】よ。御住まいのためにあなたがお造りになった場所に。

主よ。あなたの御手が堅く建てた聖所に。

【主】はとこしえまでも統べ治められる。」



【ミリヤムの歌】 出15:19～21

パロの馬が戦車や騎兵とともに海の中に入ったとき、【主】は海の水を彼らの上に返されたのであった。しかしイスラエル人は海の真ん中のかわいた土の上を歩いて行った。

アロンの姉、女預言者ミリヤムはタンバリンを手に取り、女たちもみなタンバリンを持って、踊りながら彼女について出て来た。

ミリヤムは人々に応えて歌った。「【主】に向かって歌え。主は輝かしくも勝利を収められ、馬と乗り手とを海の中に投げ込まれた。」



イスラエルは、
男も女も
老いも若きも
主を讃えた!!



Ⅲ. まとめと適用

来るべきメシアを見上げよう
私たちの出エジプト

【出エジプト記の最大のテーマを再確認しよう!!】

■主を知ること

“わたしはある” という、ヤハウェなる神を、体験的に知ること。
⇒「知る」、とは、「男が女を知る」と同義。

■エジプトは、 **主に逆らい、裁きによって神を知った**

■イスラエルは、 **主に従い、恵みによって神を知った**

【信仰者の歩みの原則を確認しよう!!】

■ イスラエルへの主の命令と出来事の順番は？

“前進せよ” ➡ “海が分かれる”

“海が分かれた” ➡ “前進せよ” ではない!!

■ イスラエルが、エジプト軍に背を向け、海に向かって歩みだしたそのとき、モーセは、杖を海に向かって差し伸べ、海が拓かれていった。

■ 主が吹かせた東風により、一晩中かかって、海は拓かれた。

➡ 即、道が拓かれるとも限らない。

■ いずれにせよ、求められるのは、**主を信頼して、一步踏み出すこと!!**

【私たちの内で、歩みを妨げるものは？】

- 召命の時、モーセは、口下手であることを理由に拒んだ。
- しばしば、私たちの劣等感が、主の命令を拒む原因となる。
- 劣等感とは、自己中心の思いから生じるもの。その裏返しが優越感。
- 神が用いられるのに、あなたや私の自己評価など、まったく関係ない!!
自己評価が低かろうが、高かろうが、そんなことは問題ではない。
- “打ち碎かれる”とは、自己評価そのものが崩されるということ。
モーセは、自己評価を打ち碎かれ、神の前に謙遜な者とされた。

主の前に、自分自身を、自己評価を打ち碎かれよう!!

【出エジプトが示す、私たちのメシア、主イエスの御顔を見上げよう!!】

■ 幼子イエスは、ヘロデ大王に命を狙われ、一時エジプトに落ち延びた。

「これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した」と言われた事が成就するためであった。マタイ2:15」

■ イスラエルの出エジプトの壮大な出来事自体が、メシアの影にすぎない。

■ 私たちが見上げるべきは、影ではなく、本体である、主イエス・キリスト。

■ 大祭司として神の右の座におられ、私たちを父なる神にとりなされ、

王の王として地上に戻り、すべての悪を裁かれる方。

私たちクリスチャンを花嫁として迎えてくださる、真実の花婿である方。

【私たちが見上げるべき主イエス・キリストとは、どのような方か？】

- イスラエルを選び出され、一方的な約束によって、
奴隷の苦難から救い出された方。
- 天地万物を支配され、驚くべき御手をもって、民を救い出された方。
- ご自身の犠牲の血潮によって、私たちの罪を贖い、辱めを受けて葬られ、
死を打ち破って復活された方。
- 私たちの祈りを、父なる神にとりなされ、
花嫁として、私たちを迎えに来られる方。
王の王として全地を裁き、永遠の王国を建てられる方。

私たちの主を信頼し、
主の御名をほめたたえよう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

イスラエルを 奴隷(どれい)のくびきから 贖(あがな)いだされた、

私たちのメシアである、主の御名(みな)をほめたたえます。

あなたの招(まね)きにこたえて、

今(いま)、あらたな一歩(いっぽ)を 踏(ふみ)み出(だ)させてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈(いのち)ります。

アーメン」